

職員研修だより

学年別グループ協議で出た意見をまとめたものです。



1年4組「英語A」萩原大貴先生

- ・コミュニケーション活動が多く、生徒が互いに関わり合っている様子が見られた。
- ・AくんとBさんのsmall talkが良く、Cくんもよく頑張っていた。small talkを入れてペアの会話をするので、みんなが話せるようになり、良い雰囲気づくりができていた。
- ・日々の授業でのコミュニケーションが、生徒の発表の態度に生かされていた。
- ・コミュニケーションにおいて欠かせないことは、Reactions, Questionsだとわかった。



2年1組「国語」小井戸苑美先生

- ・社会や学活では、男女で分かれてしまうことが多い。本時は、男女関係なく、意見を交流しているのが良かった。うまくミックスされていたり、レベルの同じ人で集まったりしていた。
- ・Dくんが気になった。自分の意見を述べたり、まとめたりするのが苦手。Eさんは、コミュニケーションは苦手かと思っていたが、文章力は豊かだと感じた。
- ・すべての生徒がアイデアや疑問を表出する場面があるか。
- ・意見を言って終わりにしない。なぜそう考えたか、を言えるようにすることの大切さを学んだ。



3年2組「英語A」須永貴仁先生

- ・英語で質問したり、理由を述べられたりしている生徒が多くいた。
- ・スペルへの自信のなさがあるが、教師の板書が助けになっていた。他者からのチェックとして、自ら聞くことから始めてもよい。わからないときにお互いに聞き合えるような雰囲気づくりが大切。
- ・Eくんは、英語が苦手でも、何をやるのかがわかっていても、なかなか取り組みづらいことがある。
- ・グループでは、質問をして、補足し、言い換えながら、他者からの反応を見て学び合っていた。

濱田先生：学習科学では、知識はネットワーク構造を備えていると考えます。授業の核として、グループで課題解決すること。生徒がアイデアや疑問を表出し、他者からの反応を得ることが大切です。

中央中等教育学校
授業研究・FEWC推進部
学年研修③ 第4号
9月19日(木)発行



4年2組「英語」春山佳奈子先生

- ・グループでやったことを一人ひとりがいかに整理して、考えたり定着させたりできているかはどのようにみとめるのだろうか。
- ・生徒が問題意識をもち、試行錯誤を繰り返して、振り返ることで協働的な課題解決ができていた。
- ・マッピングの作り方がとても良かったし、準備のビデオや絵、写真の情報量も多く、英語を活用して社会的な問題に向き合っていた。
- ・Fさんはグループになると少しおとなしめ。Gさんは、自分一人でもできるので、意欲がないわけではないが、他の生徒の意見を聞く姿勢が見られた。



5年2組「古典B」吉田信子先生

- ・普段おとなしい生徒が、グループにすることで活動的な面を見せることがあがると思うが、やはりあまり乗り切れないままの生徒もいる。そういった乗り切れない生徒にどう働きかけたらいいのか悩んでいる。
- ・いつもより全体的によく話していた。ほぼ全員がグループ活動にはよく参加していた。おとなしい男子はどう学んでいるのか。
- ・話し合う内容=授業のめあてのレベルが高かったため、生徒の活動に差が生じたところを見ると、めあての焦点化、話し合いの深め方に対する教師の指示の仕方が難しいと感じた。



6年3組「地理」轟木重利先生

- ・雨温図のクリア化等、生徒に思考させる工夫が見られた。
- ・アイデアを統合しないまま終了して、個人の理解は深まるのか。
- ・一人で考えたり、必要に応じて他者と協働したりする様子があった。自分と対話するのもよいのではないかと。雰囲気親しみやすい感じであった。
- ・前を向いての一斉授業でも、アクティブ・ラーニングできる。苦手なHくんはよく頑張っていた。また、知識をねじ込む時期にALとの葛藤もある。
- ・集団から個に戻すタイミング難しい。最終的には一人で考えることが必要だが、どうすればよいのか。

※次回の学年研修は、10月24日(木)です。よろしくお願いいたします。

